



2021年5月14日

# 出版3社が丸紅と新会社設立に向け協議を開始

## ～出版界と読者の利益のために～

平素より弊社の出版活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

このたび講談社（東京都文京区）と集英社（同千代田区）及び小学館（同千代田区）の出版社3社は、大手総合商社・丸紅（東京都中央区）と、出版流通における新会社の2021年年内の設立に向けて協議を開始いたします。

---

2020年の出版売上は1兆6,168億円（全国出版協会・出版科学研究所調べ）となり、2年連続の前年越えとなりました。

しかし、近年さまざまに報じられておりますように、出版界は構造的な課題を抱え続けており、各部門においての改善が急務とされています。

そのようななか、今回出版社3社は、出版界と長年に亘っての取り引きがあり、他業界におけるサプライチェーン改革の実績がある大手総合商社の丸紅をパートナーとし、出版流通における課題を解決していくために、新会社を設立し、いくつかの新しい取り組みをスタートする予定です。

新会社による主な取り組みの内容は以下の二つです。

### 1 <AIの活用による業務効率化事業>

書籍・雑誌の流通情報の流れを網羅的に把握し、その際、AIを活用することで配本・発行等を初めとする出版流通全体の最適化を目指します。

### 2 <RFID (radio frequency identifier)活用事業>

RFID=いわゆるICタグに埋め込まれた各種の情報を用いて、在庫や販売条件の管理、棚卸しの効率化や売り場における書籍推奨サービス、そして万引き防止に至るまで、そのシステムを構築し運用することを検討してまいります。

（2のシステムは1の仕組みの「最適化」の精度向上につながるものでもあります。）



KODANSHA

われわれ出版社3社は、上記の取り組みをパートナーとなり進めていく予定の丸紅に、全面的に協力、サポートしてだけでなく、できる限り多くの書店・販売会社及び出版社の方々に、この新しい会社が提供する新サービスをご利用いただきたいと考えております。

そして、そこから生まれる利益を業界内の関係各社に広くシェアすることで、その結果が、1店でも多くの書店、1社でも多くの出版社、そして何より1冊でも多くの出版物を手にとっていただける読者の皆様の利益に資するものと、確信しております。

われわれは、全国の書店の皆様の経営が健全化して行くことを第一義に、出版流通全体が新しく生まれ変わることによって、読者のかたがたが店頭で魅力ある出版物と出会い、快適な読書環境を続けて行けることに、新会社の取り組みが必要と考えます。

出版界のみならず、広く皆様のご理解、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社 講談社  
株式会社 集英社  
株式会社 小学館